

日本救急医学会 OHCA 特別委員会 委員会報告

院外心停止レジストリの現況と今後の展望

日時：平成 29 年 10 月 25 日（水）14:40～15:40

会場：リーガロイヤルホテル大阪 ウェストウイング 2F

山楽 2（第 6 会場）

<https://www.rihga.co.jp/osaka>

内容：

座長：森村尚登（東京大学大学院医学系研究科 救急医学, OHCA 特別委員会委員長）

石見 拓（京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター, 同委員）

1. JAAM OHCA レジストリ症例集積の状況
2. OHCA レジストリ解析提案・プロトコル提案の申請状況
3. JAAM 統合データベース構想
4. 総合討論/JAAM OHCA レジストリ今後の予定

概要：

日本救急医学会 OHCA 特別委員会では、『心停止症例の蘇生に関わるデータを収集し、客観的な検証を行うことにより、地域の心停止例の救命率を向上させること』を目的として、多施設共同の院外心停止レジストリを構築し、取り組みを進めている。

2014 年 6 月より症例登録を開始し、2016 年 12 月末時点で約 2 万例の症例が集積された。現在、2014 年分のデータ約 4000 例について、病院前のウツタインデータとマッチング作業を進めている。2016 年 8 月には、第 1 回の研究テーマ募集を行い、46 件の解析提案をいただいた。テーマの重複などを調整したうえで、まもなく 2014 年度分のデータを配布し、解析が本格化する予定である。今後は、蓄積されるデータの解析に加えて、新規プロトコル（新規項目）の提案も開始する予定である。更に、これまでに構築したレジストリシステム、運用ルールを活かしつつ、日本救急医学会が進める学会統合データベース事業との協力関係の構築も進めていく必要がある。

今回の委員会報告セッションでは、JAAM OHCA レジストリの現況を報告すると共に、新規プロトコル研究と学会の運営するコアレジストリや統合データベースとの関係、レジストリを継続的に運営するにあたっての課題等につき、皆様と議論を深める場としたいと考えている。共有の財産である院外心停止レジストリを活用し、院外心停止症例の蘇生にかかわるエビデンス発信と現場への還元を進めていくために、多くの皆様にご参加いただきたい。